

人がつながり、まちを元気に ご近所で広げよう小地域福祉活動

－平成23年度 小地域福祉活動に関する調査研究事業報告－



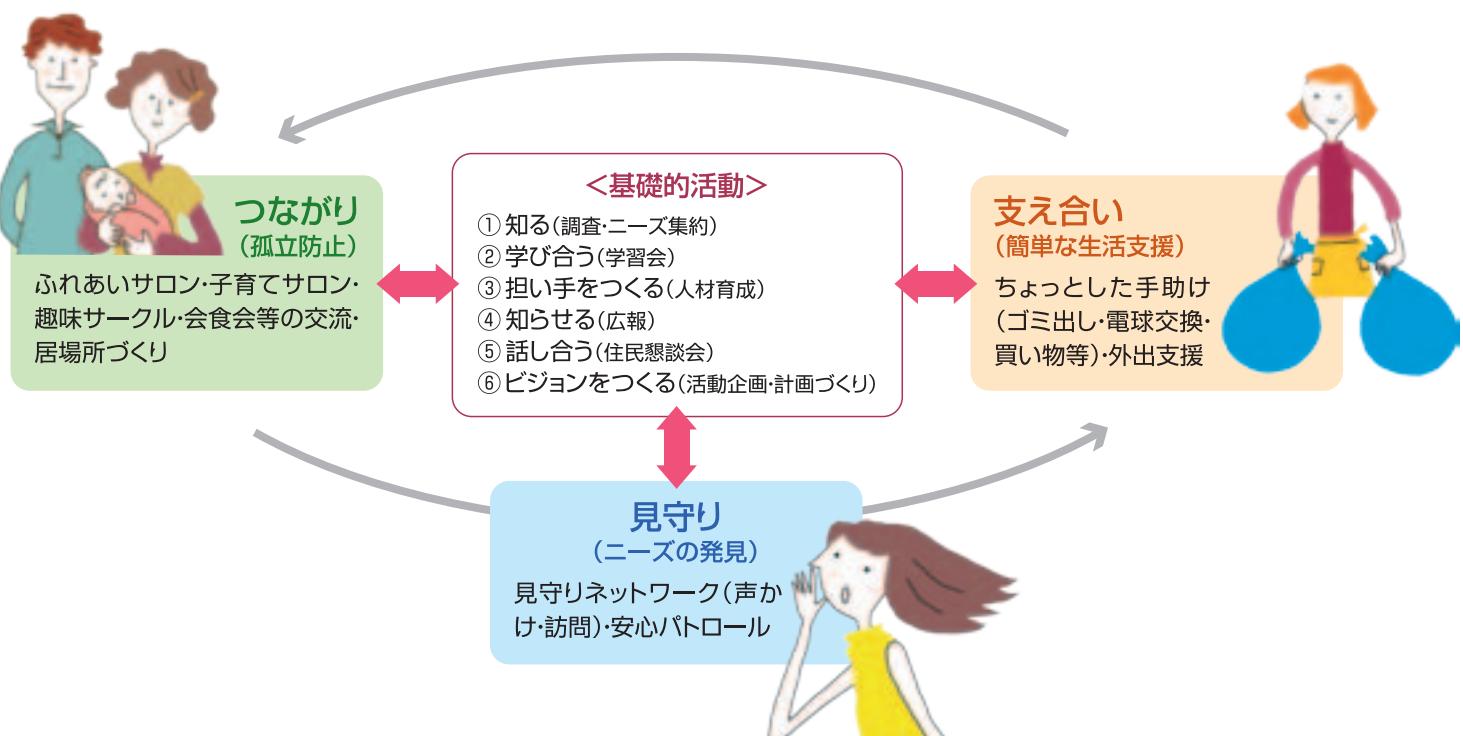
地域では、隣近所との交流が少なく社会的に孤立している人のさまざまな問題や、無縁死や虐待といった深刻なケースが後をたちません。昔ながらの地縁や助け合いが残る奈良県においても、多くの地域でつながりが希薄化し、暮らしの困りごとが発生しています。

小地域福祉活動は、身近な地域で住民が力を合わせて、困りごとを解決する有効な取り組みとして、いま改めて注目されています。

奈良県社会福祉協議会では、小地域福祉活動がますます充実・発展していくために何が必要なのか、学識者や市町村社協職員からなる委員会を設け、一年間にわたり調査研究を行いました。その概要をご報告します。

小地域福祉活動とは…

住民にとって身近でなじみのある日常生活圏域（自治会や小学校区などの徒歩エリア）で行われる住民が主体となった福祉活動のことです。暮らしの困りごとを解決することをめざして、サロン活動や見守り活動、生活上の簡単な手助けを行う生活支援活動などが行われます。



広がれ！小地域福祉活動

小地域福祉活動を推進する市町村社協への調査や、実際に活動されている方への聞き取り調査から、地域福祉活動を広げていくためには次の3つのことが大切であるとわかりました。

1. サロン活動をご近所に広げよう

ご近所エリア（自治会や大字くらいの小さなエリア）でのサロン活動は、さまざまな事情で遠くへの外出ができなくなつても気軽に歩いて行ける居場所として、孤立やひきこもりを防止する効果があります。

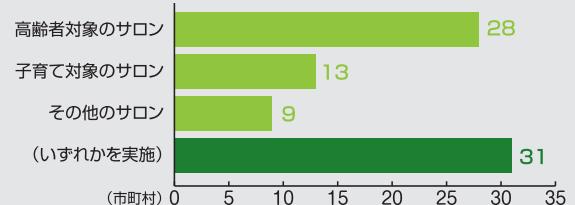
楽しさを共有しながら気軽に始められる活動として、県内各地で取り組まれていますが、さらに多くの身近な地域で活動を増やしていくことが大切です。

推進するためには…

手間のかかる準備や経験がなくても、お茶を飲みながらおしゃべりができるれば充分です。「声をかけあう」「気にか

けあう」「行き来する」ような仲間づくりができるサロン活動を、ご近所エリアに広げていきましょう。

サロン活動が実施されている市町村数



2. 見守りや支え合い活動を広げよう

サロン活動をしていると、「ひとり暮らしで生活や健康に不安のある方」「閉じこもりがちの方」「サロンから足が遠いの方」などさまざまな事情を抱えた方に気づきます。こうした気づきを大事にすることで、日常的な助け合いの活動が生まれてくるのです。

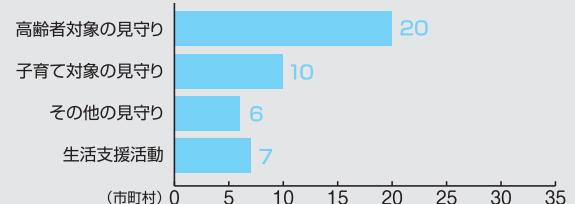
地域での暮らしは、互いの変化に気づいたり、ちょっとした手助けがあることで安心感が得られるものです。また、日々の地道な見守りや支え合いが、災害時などの助け合いの底力にもなります。

推進するためには…

地域の状況の変化や、サロン活動での気づきを大切にして、地域で話し合いながら新たな取り組みを検討しましょう。日常的な見守りや支え合いの活

動は、時に対応が難しいケースもありますが、行政や社協、福祉専門職とも連携しながらすすめていきましょう。

生活支援活動が実施されている市町村数



3. 活動の基盤となる組織づくりを広げよう

活動を継続・発展させていくには、地域に根ざした取組として、広く地域住民の理解と協力を得ることが必要です。そのためには、自治会との連携・協働や、活動の基盤となる小地域福祉推進組織※の設置をすすめていくことが大切です。

現在、推進組織は12市町村で設置されており、他でも設置に向けた検討が始まっています。

推進するためには…

ひとりではなくみんなで活動することで、広がりと継続性が生まれます。地域の関係団体（自治会や民生委員、老人クラブ、子ども会など）や、有志の世

小地域福祉推進組織を設置・検討している組織



話焼きさんとが連携して、地域に根付いた活動しやすい組織づくりをすすめましょう。

※小地域福祉推進組織：地域の関係団体（自治会・民生委員・老人会・子ども会など）やボランティア活動者等を構成員として、福祉でまちづくりをすすめる組織（地区社協や地域福祉推進委員会、小地域福祉会など名称はさまざま）

始めよう! 小地域福祉活動 (事例:大淀町/新岡憩の会)

駅前商店街から徒歩圏内に広がるこの地域は、住民同士のつながりも強く、隣近所の助け合いも残っていますが、平成22年新たに会を設立し活動を始めました。



きっかけは…

高齢化がすすみ、ご近所の世話を焼きさんだけでは、追いつかなくなるのでは、と危機感がありました。そんな時、隣り合う6つの自治会で、地域の高齢化の問題を考えようと声がかかり、参加しました。自治会長や民生委員さんなども交えて、地域のいろいろな課題が話し合われました。



代表の泉沢さんに
経緯を聞きました。

地域への思い…

それまでも、個人的に気になる人への声かけや、通院の付き添いや、日々の手助けなど、ご近所さんで助け合ってきました。でも、「一人ひとりができることは、している。これを地域に広げたい」その一心で、気心の知れた仲間と協力して立ち上げました。

活動の内容…

楽しくおしゃべりできる居場所づくりをめざして、サロン活動を始めました。季節感を感じられる工夫をしながら、居心地のよいサロンをめざしています。ここで顔見知りになったり、近況を話したりすることで、まちで出会ったときに会話を弾むようになりました。何よりも次を楽しみにしてくれている声が励みになります。

活動の基盤…

徒歩圏内にある6つの自治会域が協力し、地域全体の取り組みとして、各自治会の共同のサロンにすることで、担い手や財源の確保につながりました。

みなさんの身近な地域でも活動を考えてみませんか?

身近な地域で気づいた課題を、地域全体で話し合うことで、「愛着のある地域で安心して暮らしつづける」ために、大切な活動が始まりました。自治会域を超えたサロンは、同じ生活圏で暮らす住民同士のつながりを再確認する効果もあるようです。

小地域福祉活動で育まれる「地域住民が力を合わせて問題を解決する力(地域の福祉力)」は、まちづくり全体に活かすことができ、あなたのまちの元気や活力にもつながります。みなさんも、ご自身の「ご近所エリア」を見つめ直し、地域の実情にあった活動を考えてみませんか?

県社協では、平成24年度から3年間のアクションプラン(第4次活動推進計画)として、く暮らしのセーフティネットとしての「つながり」と「仕組み」づくりを目標に掲げ、そのための重点活動方針の1つとして、小地域福祉活動の充実・発展をめざして取り組みを強化していきます。

この調査研究の報告書を通じて、活動推進を支える市町村社協や市町村行政はもとより、広く関係者に推進方策を提案し、県内全域での活動発展をめざします。